

コンピュータ沖繩は、急速に普及するタブレット端末やスマートフォンに対応したソリューションの開発と拡充に力を注ぐ。名護宏雄社長は「ス



名護 社長

マートデバイスの登場でビジネスは一変した。顧客が変わってきているので、営業も変えなければならぬ」と、環境の変

コンピュータ沖繩

化への対応を急ぐ。

「IT業界は構造的变化が起きている」と指摘。従来はメーカー、流通、販売店、顧客へと伝わってきた情報の流れが「逆転しうる可能性がある」

スマホ、タブレット対応強化

と、エンドユーザーにも注目。市場に転がっている。原石の発掘にも力を注ぐ。「これらをモノでできる会社が生き残れる」として、発掘した成功事例の横展開を狙う。

今年初めに、組織横断

の若手社員で構成する「タブレット研究会」を社内立ち上げた。「十分な成果はまだ出ていない」としながらも、成果は官公庁、学校、個人を

問わず、全業種・全顧客へと展開させたい考え。

スマートフォンの普及は、13年3月期売上高は前年比4.7%増の11億9700万円。前半は苦戦したが、後半の官公庁の伸びが全体をカバーしている」と評価する。

た。

高度なノウハウが必要な技術者派遣事業は、12年に獲得した浦添市の基幹業務システムのサポート業務は、運用に3人、ソフト開発に1人の合計4人が参画している。

ヘルプデスク事業は、県と沖繩市との契約が継続。

学校支援員の派遣は、沖繩市と恩納村で実績があり、今後増やしていく方針だ。

「ITは高度化、複雑化しており、専門企業へ外部委託するニーズは今後も増える」と予想。今後技術者派遣事業を拡大するため、技術者育成を急ぐ。

13年度売上高は前年比5-10%増を予想。沖繩振興一括交付金による文教市場のIT投資に加え、サポート終了に伴う買い替えや、スマホ・タブレット向けパッケージソフトの伸長などが追い風になるとみる。